

# 英国陶磁の世界

ドクター・ウォールからロイヤル・ウースターまで



2019  
9.21(土)→10.27(日)

会場

岡崎市旧本多忠次邸

●開館時間

9時～17時(入館は16時30分まで)

●休館日

毎週月曜日

(9月23日、10月14日は開館)

9月24日(火)、10月15日(火)

●入館料

一般 300円／小中学生 150円

※岡崎市内在住・在学の小中学生、各種障がい者手帳をお持ちの方とその介助者(1名)は無料

●主催／岡崎市

●企画協力／西洋骨董陶磁ロムドシン

岡崎市旧本多忠次邸

OKAZAKI CITY FORMER RESIDENCE OF HONDA-TADATSUGU

〒444-0011 岡崎市欠町字足延40番地1(東公園内) Tel.0564-23-5015



上:ウースター  
《伊万里写しジャンケットディッシュ》1765～75年

下:ロイヤルウースター  
《ピンク地金彩静物図両手付飾壺》1919年



18世紀半ば、イギリスの磁器生産は、国内で産出される粘土の違いなどからドイツ(マイセン窯)や他のヨーロッパ諸国に比べ後れをとっていたものの、ソーブストーンを使った磁器や家畜の骨灰を混ぜた「ボーンチャイナ」(ボーンは骨、チャイナは陶器を指す)、また銅版転写法など新しい技術を開発・採用し、産業革命というイギリスを世界の覇者とした時代の潮流に乗り、一躍表舞台に肩を並べました。繊細な絵付けや金彩を施し、実用性と優美さを兼ね備えたイギリス陶磁器は世界の上流階級に愛され、中でもイギリス王室から「ロイヤル(王室御用達)」の称号を与えられた窯は、その栄誉を品質の中に守り続け、時代を経た今なお多くの人々を魅了しています。

今回の展示では、イギリスで最も長い歴史をもつ窯の一つであり、御用窯としてロイヤルを名乗ることをはじめて許された名窯ウースターを、創設者のひとりジョン・ウォール博士の時代から20世紀まで追うとともに、ミントン、ウェッジウッド、ロイヤルドルトン、ロイヤルクラウンダービーなどイギリスを代表する陶磁器の数々を紹介します。

産業革命とロイヤルの称号への誇り—王室伝統の維持という一見反する社会構造のもとで洗練されていったイギリス陶磁器の、風格と気品に満ちた世界をお楽しみください。

関連  
イベント

ギャラリーツアー

内容: ロムドシンスタッフが展示作品をわかりやすく解説します。

日時: 2019年9月21日(土) 11時～、14時～、各回とも

参加無料(要入館料) / 事前申込不要

※混雑した場合は参加を制限させていただく場合があります。



岡崎市旧本多忠次邸

OKAZAKI CITY FORMER RESIDENCE OF HONDA TADATSUGU  
〒444-0011 岡崎市欠町字足延40番地1(東公園内) Tel.0564-23-5015



ウースター  
(ファンパターnty-カップ&ソーサー)  
1755~75年



チェンバレンウースター  
(貝殻ポーター-英国国会議事堂手付ディッシュ)  
1840~45年



ミントン  
(トルコ石ブルー地金彩ローブ模様子ども両手蓋付飾壺)  
1868年



ミントン  
(ピンク地金彩花と人物図形ポブリボット)  
1881年



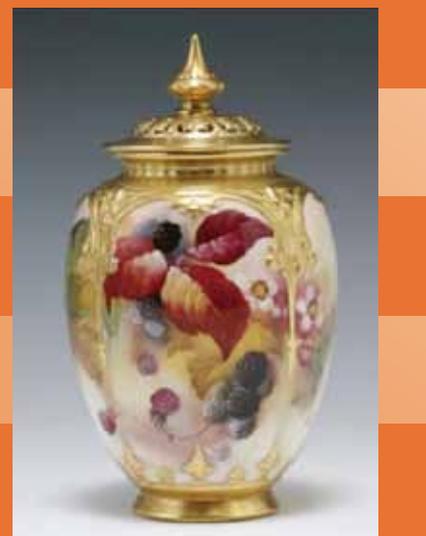
ロイヤルクラウンダービー  
(ルリとグリーン地金彩花弓楽器図ジュール付両手蓋付飾壺)  
1899年



ウェッジウッド 《猿の親子像》  
奥/クリームウェア 1940~60年  
手前/ブラックバサルト 1927~35年



ロイヤルドルトン  
(フラッシュアイボリー地金彩菊花図ジュール付花瓶)  
1891~1902年



ロイヤルウースター  
(金彩ブラックベリー図ポブリボット)  
1929年

徳川四天王のひとり本多忠勝(1548-1610)を始祖とする旧岡崎藩主本多家の子孫、本多忠次(1896-1999)が昭和7年(1932)、東京世田谷に自邸として建てた木造2階建の洋館です。平成24年(2012)に岡崎市に移築復原され、平成26年(2014)10月には国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

【開館時間】 9時から17時  
(入館は16時30分まで)

【休館日】 月曜日(月曜日が休日の場合は翌日以降の最初の休日でない日)、1月1日~3日、12月29日~31日、展示替期間

